



感謝祭を待ちわびて

子どもたちが無力感と絶望感に襲われるこの時期、どうか神様の愛を見せてあげてください

人生の嵐というのは、どんな場合も極めて厳しいものです。しかしタラを襲った嵐はさらに、究極の孤独感をもたらすものでした。先天性の神経障害を抱えながら、タラは自分自身の障害と2人の息子の育児に並みならぬ奮闘を続けてきました。子どもたちにも同じ障害が遺伝していたからです。

子どもを深く愛していたタラは、自分の苦しみや悲しみを子どもには見せまいと努めていましたが、感謝祭のことを思うと、もうそれも限界でした。メトロのバスキャプテンは、ラブボックスを携えてタラを訪問したとき、タラの苦しみがどれほどのものだったかを初めて知りました。

ラブボックスはずっしり重かったのも、タラは受け取りを子どもたちに任せ、キャプテンをドアの外に連れ出して尋ねました。「どうしてわかったんですか？ 感謝祭用の食事が用意できないって。感謝祭のごちそうどころか、実際には普通の食事さえできるかどうかもわからなかったんです。」

キャプテンはタラを見つめ、そして言いました。「知りませんでしたよ。でも、神様をご存知だったんです。神様あなたをお忘れにならなかったんです。」

マタイの福音書 6章31-32節には、こうあります。「そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。…あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。」

神様はタラ親子の状況をご存知でした。この日に必要なものをご存知でした。そして、この日に

先立ってある人の心に働きかけ、ラブボックスの支援をしようという気持ちを起こさせたのです。この支援がタラ親子に届くことを神様はご存知でした。神様がその愛を形にしてくださったのです。

感謝祭は、もうすぐそこです。子どもたちに心と体の栄養を届けるために、どうかあなたからの恵みとご支援をご検討ください。

今、子どもたちを霊的に肉体的にも養うことのできる素晴らしいチャンスがあります。4200円で、たくさんの食べ物と七面鳥が入った箱を送ることができるのです。これだけあれば、空腹の家族が1週間食べていくのに充分です。

私たちが手にしているものは、全て神様からいただいたものです。そして私たちメトロと子どもたちにとっては、あなたもその一部です。タラの子もたちと同じ境遇の子どもたちが大勢います。今年の感謝祭、どうかラブボックスにご協力ください。神様が私たちの必要をご存知であることを、自分を心から思いやってくれる人がいることを、感謝すべきことがあることを、より多くの子どもたちに伝えるために。



ラブボックスを受け取った子どもたち



この言葉を何度耳にしたか知れませんが、
「ビル先生、お腹すいた。」

どうか感謝祭にラブボックスを贈り、子どもたちに神様の愛を見せてあげてください。
感謝を込めて。

感謝します!

先月号のレポートで食料品の募集をしたところ、大変多くのお申込みをいただきました。スポンサーの皆様、そしてメトロをご支援くださる皆様からの大きな愛を受け取り、大変感謝しております。ぜひ、これからも子どもたちのためにお祈りください。

また今月は、ケニアのクリスマスプレゼントとアメリカのラブボックスのご支援を募集します。ケニアは締切りが迫っていますが、ぜひご協力をお願いします。

ケニア クリスマスプレゼント!

詳細は同封のチラシをご確認ください。9月15日

アメリカ ラブボックス!

締切は10月10日です。

詳細は同封のチラシをご確認ください。

今月号の目次

P2...私のメトロエピソード/クリスマスカード募集

P3~4...インターンシップを終えて

P5...今月のデボーション/子どもの支援対象年齢その他について

P6...日本事務所からのお知らせ

イエス様の働きを感じて ～私のメトロエピソード～

メトロ・ワールド・チャイルドのスポンサーになってくださっている大村ゆう子様より、喜びの声が届きました！

私は3年前のビル先生のセミナーで心を動かされて、フィリピンの子のスポンサーになりました。初めてのクリスマスにはプレゼントを送り、その子から感謝のメッセージカードとはにかんで喜んで写真が送られてきました。そのメッセージと写真を見た時に、涙が溢れてきました。年末仕事で疲れきっていた私に、素晴らしいクリスマスプレゼントを頂き、家中が天の光で満ち溢れるようでした。

今年その子からももらった手紙には、「私の名前を周りの人に自慢して話している」と書いてあり、私はびっくりしました。そんなに私の存在を特別に思ってくれていると知り、これは本当にイエス様の働きなのだと思えました。

私はお金持ちではなく、水害に遭ったり、怪我をして失業したりしましたが、そのような時にいつもイエス様が守ってくださり、道がいつも開け、スポンサーが続けられています。私とその子の間にいてくださるメトロのスタッフの方の献身と祈り、そしてどんな天変地異が起ころうと必ず守ってくださるイエス様、その力をいつも感じています。

メトロの活動はイエス様がトップにいてくださり、私には無理かも、できないかも、と思っても、イエス様が私達を助けてくださいます。このような働きに用いられた恵みに感謝します。

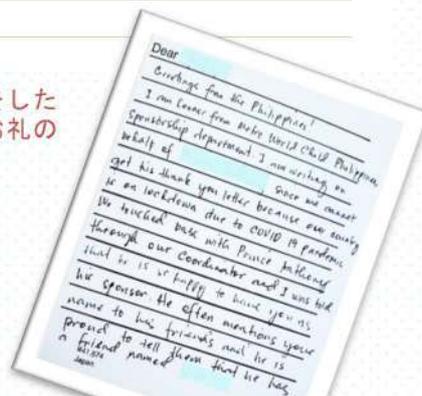
お金も勇気も知恵も力も、何一つなくても、すべて与えてくださるイエス様に心から感謝しています。

これからも、祈りと感謝を忘れずに、イエス様の御名の為に、一番小さなことに、一番大きな愛をこめて、献身させて頂きたいと思っています。

サポートしている子どもから届いたクリスマスカード



学用品支援をした際に届いたお礼の写真



先月、ロックダウンにより直接手紙を書けない子どもに代わり、担当スタッフからお礼と子どもの様子が書かれた手紙が届きました。

あなたも、子どもとのかけがえのない関係を築きませんか？

メトロのスポンサー募集中！



ケニアとフィリピンへのクリスマスカード受付中！

ケニア宛 … 9/15 フィリピン宛 … 10/14 日本事務所必着

ご自分がサポートしているケニアとフィリピンの子どもへ届けたいクリスマスカードを、日本事務所までお送りください。

- * ケニアとフィリピンの子どものスポンサー以外の方からの受付はできません。
- * 現地スタッフが、安全確保のために個人情報が書かれていないか確認します。封は開けておいてください。手紙にご自分の名字は記入しないでください。
- * 日本語でお書きいただいた手紙は、ボランティアスタッフが英訳します。
- * ヘアピンやシールなど、定型サイズの封筒（縦横23.5cm x 12cm x 厚さ1cm 手紙を含めて25g以内）で収まるものは同封いただけます。



METRO Philippine

インターンシップを終えて

先月に続き、2019年にメトロ・フィリピンのインターンシップ(研修制度)に参加された日置 頌 様のレポートをお届けします。

スモークーマウンテンを訪問

トレーニングの最後の方には、いよいよ実際に道端教会学校を行う地区を見に行きました。この時に、僕たちはトンド地区のスモークーマウンテンとNorth Cemetery(ノース・セメタリー: マニラにある大きな共同墓地)に行きました。スモークーマウンテンは非常に有名で、様々な話を日本でも聞きますが、メトロが長年活動している場所なので、メトロのTシャツを着ていれば危険な目に合うことはありません。でもそこで目にしたのは、僕にとってとても大きなチャレンジでした。

スモークーマウンテンは、以前ほどではないのかもしれませんが、それでもゴミでできた大きな山があります。



スモークーマウンテンでゴミ収集をする scavenger(ゴミ収集で生計を立てる人々のこと)

そして、その上に住んでいる人たちもいます。板とトタンでできた家の一部は撤去されて、新しく建てられた大きなコンクリートのビルに移り住んでいます。とても良い環境とは言えませんでしたが、僕たちはその建物のことを、窓のひさしの色からグリーンビルディングやレッドビルディングと呼んでいました。



グリーンビルディング前

そこに暮らす人々の現状を目にして

まずグリーンビルディングやレッドビルディングの中を見た後に、スモークーマウンテンを登りました。そこに、障害を持った子がいて、スタッフが中に入って事情を聞いていました。スモークーマウンテンの頂上に上った時に、僕はやるせない気持ちになって、涙が出てきました。その山の上から、マニラ港がはっきりと見えるからです。コンテナが山のように積み

あがっていて、巨大なクレーンとタンカーもよく見えました。目の前にはこんなにたくさんのお金やモノが動いていて、世界とつながれる場所があるのに、明らかに生活水準の低い人たちが僕の目の前にいることに、なんとも言えない気持ちになりました。



スモークーマウンテン頂上から見えるマニラ港

その後、スモークーマウンテンを後にして North Cemetery に向かいました。そこにはたくさんの方が住み着いています。ここ数年改修工事をしていて、取り壊しの際に出てきてしまった人骨が転がっていることもあります。健全な場とはとても言えない状況です。でも、子どもたちやそこに住んでいる人たちは全く悲観的でなく、いつも笑顔でいました。僕たちから見ると異常な状況が普通にそこにあって、問題も多くあるのに、日常がそこにあるのを見て、この問題の底知れなさを思いました。

信仰の戦い

こういう場所に福音を伝えに行くということは、僕にとっては非常に大きなチャレンジでした。スタッフとこのことについて何度か話したのですが、「このような苦境の中にある子どもたちも神様は愛していて、救い出してくださいと信じるのが信仰だよ」と言われました。その時初めて、自分が本気で神様を信じていけなかったと気付かされました。僕の心の中には不安や葛藤だらけでした。

インターンシップの期間中、それらに関する信仰的な戦いはあったのですが、それらと戦うようにして聖書を読み、賛美し、祈るスタッフと4か月間共に過ごせた時間は、僕の信仰にとって重要な訓練となりました。目の前の問題が多すぎてどうしようもないと感じるけれど前へ進む、という訓練です。この訓練を経て、僕の信仰は非常にシンプルになりました。問題も課題もあるけれど、それでも神様は良いお方だと素直に言えるようになりました。

道端教会学校でのメッセージの様子



道端教会学校のある週の普段のスケジュール

トレーニング期間が終わった後は、本格的に道端教会学校が始まります。僕たちが活動する地区の子どもたちは、あまり英語が堪能でないので、タガログ語でコミュニケーションをとる必要があります。そのため、言語的な壁はありますが、基本的に道端教会学校内ではスタッフとあまり変わらない仕事をしました。音響や司会、メッセージの担当など、僕にできることはたくさんありますし、子どもたちもすぐに馴染んでくれます。



担当地区での道端教会学校。時には 400 人を超える子どもたちが参加してくれます

チーム A、チーム B、チーム C、チーム D の4チームあるのですが、インターン生はBとDの2チームに振り分けられ、Cは、BとDの2チームからメンバーを出し合って構成していました。もちろん道端教会学校が始まってからは、色々なことがありました。笑ったことや楽しかったこと、辛かったことと様々ですが、ここでは伝えきれないので、普段のスケジュールと写真の軽い説明だけにとどめたいと思います。

日	休み
月	休み
火	午前:学びの時間 夜:トレーニング
水	午前:ミーティング 昼:道端教会学校(チームC)
木	午前:学びの時間 昼:道端教会学校(チームC)
金	午前:訪問 昼:道端教会学校(チームD)
土	終日:道端教会学校(全チーム)

トレーニング…フィリピンではフィリピン中の教会と協力しながら、道端教会学校を行っています。この時間に、それぞれの地域の協力教会を借りて、ボランティアとして活動している道端教会学校のメンバーをサポートし、必要なもの(ピラ等)を提供します。

訪問…それぞれ担当している地区を訪問して、ピラ配りをして子どもたちを集めます。親と話すことも大切な仕事の一つなので、この時がそれぞれの地区の家族と仲良くなるチャンスです。

学びの時間…毎週、インターン生には課題が出されます。休みの日も課題をやったり、一週間分のご飯の買い出しなどやることは意外とあります。



ビジターとして来ていたドイツ人チームとワーカーとして助けてくれるフィリピン人メンバーと一緒に

10 月末から 11 月初旬にかけて休暇があるのですが、それ以外の日はやることがたくさんあり、毎日忙しいです。



←道端教会学校終了後に、参加した子どもたちと写真撮影

道端教会学校プレオープニングの様子。インターン生みんなで仮装しました↓



スタッフやインターン生と一緒に移動中の車内の様子↓



終わりに

言葉では言い尽くせないほどたくさんの経験をしました。信仰的に成長させられたのはもちろんのこと、人間的にも成長させられる部分が多かったです。言語的な壁や経済的な問題など色々あると思います。でももし神様がそれらの壁を取り払って、GOサインを出しているなら、ためらわずに一歩踏み出してみてください。必ず大きな助けになると思います。



North Cemetery での最後の道端教会学校の後

日置様のレポートは、次月に続きます。次回は、場所が変わってケニア編です！

2020年9月 今月のデボーション by ビル・ウィルソン

「足場を固めるには まず静まること」

イスラエル人たちは「エジプトからの解放」という画期的な未来に色めき立ちましたが、いざ動き始めるとその興奮は長くは続きませんでした。奴隷であった彼らにとって現実には厳しく、自分たちのために神が直接働かれるのを見ていながらも、エジプトでの生活を脱却するのは大変なことだったのです。

モーセに率いられてイスラエル人たちは砂漠を歩き、さらに未知なる地へと入って行きました。どこへ向かっているのか誰も知りません。そこへ、エジプトのパロの軍隊が自分たちを激しく追って来るのが見えて、何十万というイスラエルの民たちは怖気づき不安になりました。そして、現代の教会員たちが不安を感じた際にするのと同様、イスラエル人たちも不満を言い始めました。

事態が悪化するほどにイスラエル人たちはパニックに陥り、モーセに向かって文句を言い、さらには神に向かって叫び始めました。彼らは突如として「奴隷としての生活はそう悪くなかった」と考え始めたのです。そしてモーセに言いました。「どうして放っておいてくれなかったんですか。確かに奴隷生活は惨めでした。でも、少なくとも命の保障はありました！いったい何ということをお私たちにしてくれたのです、ここで死ぬことになるなんて！」…思い出してください、イスラエル人たちは怒りをぶつけることに終始し、神にまでたてつきましたが、願いは聞かれなかったことを。

民にこの先を進む勇気を持たせなければならぬ、とモーセは思いましたが、その前に、彼らを静める必要を感じてこう言いました。「落ち着け。恐れてはいけない。今しばらくその場で黙っていなさい。そうすれば神が御業をなされる。」その後の展開はもう、ご存知でしょう。紅海の水が分かれて立ち、イスラエル人たちは乾いた地を進んで行きましたが、追ってきたエジプト人たちは一人残らず水の中に消えたのでした。

今、あなたが苦難の中で車を走らせているなら、神が同乗を望んでおられることを知らなければなりません。しかし、あなたが神の前を走り過ぎようとするれば、神がそこへ強引に乗り込むことは困難です。ブレーキをかけて神を迎え入れてはどうでしょう。少し立ち止まり、何もかも止めて静まるひとときを持ってみてください。

そうして乗り込んで来られたお方を良い同乗者だと感じたなら、今度はそのお方の運転ぶりに期待しましょう。

それでモーセは民に言った。

恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。

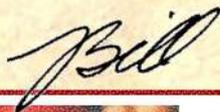
あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。

主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。

—出エジプト記第14章13～14節—

心をこめて

創業者・主任牧師 ビル・ウィルソン



サポート対象の年齢その他について

日本事務所の開設当初、サポート対象はメトロ・ワールド・チャイルドの主催する教会学校に参加している3歳から18歳までの子どもでした。しかし、その後子どもたちを取り巻く環境は急激に変化したため、メトロでは、子どもたちの状況に応じて対象とする年齢や範囲を柔軟に変えています。皆様に各国の現状をお知らせしますので、参考にしてください。支援の条件は、メトロの主宰する教会学校や学生の集会に熱心に参加しているか、奉仕者となっていることです。

アメリカ…日本と同様に大学進学率が上がり就職年齢も上がっていますので、21歳まで支援可能。

フィリピン…ワーカーとしてメトロの働きに関わる子どもは、就職するまで支援可能。

ケニア…公立の学校内でメトロの活動をしていますので、子どもが学校に通っている間は支援が可能。家庭の状況により、学校に通っている子どもの年齢はまちまちです。

皆様のご事情により、途中で支援を中断せざるを得ない場合は、日本事務所までご遠慮なくお申し出ください。

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

ケニア

クリスマスプレゼント募集！

毎年、8月にはケニアのクリスマスプレゼントのご案内をしておりましたが、今年はコロナウイルスの影響があり、現地の状況を見ていたため、募集開始のご連絡が遅くなってしまいました。申し訳ございません。

ケニアのスタッフがクリスマスプレゼントを渡す方法を考えますので、通常通り募集します。詳細は、同封のチラシをご確認ください。締め切り日が9月15日(火)となっておりますので、ご注意ください。

クリスマスカードも、ぜひ日本事務所までお送りください。日本語で書かれた手紙は、英語訳をつけて現地に発送します。

あなたのエピソードを きかせてください！

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパンでは、レポート等に掲載させていただくスポンサーの皆さまからのお声を募集します。

- スポンサーを決意したきっかけ
- 子どもとの手紙を通してのやり取り
- 子どもの成長を感じた時
- スポンサーになってよかったと思ったこと

上記の他にも、これまで皆さまがメトロとかかわってくださったご経験の中で、印象的なエピソード等があれば、ぜひ日本事務所までお知らせください。

メールアドレス metrojapan@mission.or.jp

献金受付中！

メトロでは、コロナウイルスの影響の中でもなお、世界各地の拠点で活動が続いています。従来のように大勢の子どもを集めて日曜学校を開催することは、いまだにできていませんが、それぞれの国で様々な方法で子どもたちと地域の人々に食糧と共に福音を伝え続けています。各国のメトロの活動を支援するため、献金を募集しています。ぜひご協力をお願いいたします。

お振り込み先口座

ゆうちょ銀行 一六九店 当座預金0041610
メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン

スポンサーの方は、月々のスポンサー代と一緒に献金を引き落とすこともできます。日本事務所までご連絡ください。

日本事務所よりごあいさつ！

今年もいよいよ9月になりました。コロナウイルスの影響は、私たちの予想をはるかに上回り、あらゆる事柄に影響を受け、生活様式も急激に変わろうとしています。

このような状況の中で、私たちは一見無力に見えますが、世界の片隅で起こったことが世界中に影響を及ぼす時代になり、小さな一人ができること、その影響の範囲はむしろ大きくなっていると言えます。メトロの働きもそのひとつです。無名の人々の働きの積み重ねは、世界中で子どもたちの人生を変え、その存在意義は益々高まっています。

ご存知のようにメトロでは、今年末までに4,000人の子どもにスポンサーを探すという目標に向かって活動を続けていますのでご協力をお願いします。

皆様の上にも主からの豊かな祝福がありますようにと祈ります。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座 4-5-1
教文館 6階 TFC内
電話 03-3561-0174
FAX 089-925-1501
メール metrojapan@mission.or.jp
URL https://metroworldchild.jp/



すべてのお振り込みは、下記宛をお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン